

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷3丁目16-33
自己評価作成日	平成 25 年 6 月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 6 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっと、のんびり、かきねなし」この理念の元、入居者様の意向を大切に開かれた施設でありたいと努力している。ご家族との信頼関係、地域の方との交流を大切にしている。水分摂取に力を入れ、個別に目標を設定し、脱水の予防、便秘予防、日中の覚醒レベル向上に生かしている。排泄ケアにも力を入れており、排泄チェック表での排泄リズムの把握で、日中はほぼ布パンツで過ごせるよう自立支援に努めている。また、認知症状の改善には、服薬の見直しや学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

予讃線沿いののどかな景色の中にある事業所は開設され4年目を迎える。事業所建設時に職員の意見を出し合い、利用者にとって暮らしやすさを追求した建物は、和風のモダンな造りとなっており、足を1歩踏み入ると木の香りに癒され、利用者や家族等から好評を得ている。母体法人は新居浜市内を中心に多種の施設を運営する社会福祉法人で、「共に生き、地域から人と自然と芸術との共生」を目標として、優しい絆で紡ぐコミュニティーづくりを目指している。職員は一人ひとりの目標を持ち、利用者のケアに対して前向きな姿勢で取り組んでいる。管理者は職員の自発性を尊重して目標が達成できるよう導いており、相互に信頼関係を築いている。地域住民と日頃から交流を大切にし、利用者本位のケアが実践できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ほの花
(ユニット名)	なでしこ
記入者(管理者)	
氏名	三谷 由紀
評価完了日	平成25年 6 月 2 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設当初スタッフで話し合い事業所の理念を作った。「ほっと、のんびり、かきねなし」、「やりたいことがやりたいときにできる」、「初心原点にかえる」を目の届く場所に提示しており、常に理念に基づいてケアプランを作成し支援できているか振り返るようにしている。</p> <p>(外部評価) 理念は、利用者と地域社会、家族等の繋がりを大切にして、開設時に職員で話し合い作成している。職員には入職時の初期教育で共有しており、事業所の礎として日常のケアや介護計画の援助方針に取り入れている。ユニット毎に理念に基づいた目標を立て、常に初心や原点に立ち返りながら、職員が同じ方向を向いて実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、盆踊りや清掃活動、お祭り等地域行事に参加している。また、法人主催の行事への参加を呼びかけ交流を深めている。近所の主婦の方々に調理員として勤務していただいたり、毎日の食材は地元スーパーや鮮魚を活用している。運営推進会議には地域の代表者が毎回参加し意見交換も行われている。また、毎日のゴミ捨てや散歩などの外出を通し地域の方と挨拶を交わす中で自然と交流が深まるようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の近隣にある母体法人の特別養護老人ホームや障害者支援施設は歴史も長く、地域の一員として認識されている。日頃から職員や利用者は地域住民と挨拶や会話を心がけており、地域行事に積極的に参加している。事業所は地元商店での取り引きや交流を図り、相互の協力関係を築いている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 法人全体で地域参加型の勉強会を開催しており、事業所での取り組みや認知症の理解、支援について説明している。事業所としては運営推進会議で毎回テーマを決め認知症勉強会を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) DVDを作成し日常の様子、行事、学習療法などの報告を行っている。毎回、質疑応答の時間を設け、ご家族、地域の代表、行政、職員が意見交換を行っている。質問や要望については必ず解答するよう努めている。そこで話し合われたことを全職員に伝え、ご利用者の生活の質の向上に役立っている。</p> <p>(外部評価) 会議は市担当者、家族、地域住民など様々な立場の方の参加を得て開催している。会議には防災訓練や認知症の勉強会と一緒に開催するなどの工夫をしており、多くの地域住民に情報を発信している。参加者からは活発な意見が出されており、出された提案を次回の議題に取り上げるなど、会議をサービス向上に繋がるよう活用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加しての感想や意見を頂くほか、行事への参加案内、待機者報告、介護支援専門員が地域密着部会へ参加している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議へ参加しており、待機者数等の定期的な報告や相談など、日頃から気軽に連絡や相談ができる関係が築かれている。市の介護相談員を受け入れており、同じ介護相談員が事業所を訪問してくれ、利用者との良好な関係をつくりながら会話や相談、交流をしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行っており正しい理解に努めている。玄関、裏口等、夜間以外は施錠していない。また、言葉での抑制にも日々注意している。一人で出掛けることが日課になっている利用者には、ご家族と話し合いGPSを使用した見守りを実践したり、転倒リスクの高い利用者にはセンサーや歩行器、手摺りの設置など環境面の整備や介助方法を検討、実践する事で拘束0を目指している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを整備しており、職員は法人全体で勉強会を行うなど身体拘束をしないケアを理解して実践している。安全上やむを得ない場合は、家族等との同意書を交わし、経過観察や再検討を行い最小限となるように努めている。玄関はセンサーやGPSを利用して日中開放されており、職員間で声かけや見守りを徹底しながら利用者の自由な暮らしが送れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内の研修や勉強会で虐待防止について学んでいる。管理者は職員のストレスケアを考え各職員の言動や業務の流れの把握に努めている。職員は日常生活において身体に異常がないか、会話の中で言葉の暴力はないか注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在は自立支援事業や成年後見制度を活用する事はないが、今後必要時速やかに活用し、支援できるよう継続して学んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず重要事項説明書にて、十分な説明を行いご家族より承諾を得ている。解約や改定にも速やかに対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族からは運営推進会議や面会時、ケアプランの作成段階で、ご利用者からは普段の会話やケアプラン作成時に意見や要望等を察したり、直接確認する事で、運営に反映させている。前年度より、苦情改善ノート作成。	
			(外部評価) 利用者や家族には、訪問時やケアプラン作成などの連絡を活用して、ユニットリーダーや担当職員が必ず声をかけ意向を確認するように努めている。意見が出された場合は、苦情ノートを活用して職員間で共有し、速やかな対応をして運営に反映している。また、苦情受付窓口が事業所内と公的機関にあり、サービスに対しての意見がある場合は相談できることを利用者や家族等に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者との面談が年2回あり、意見を伝えることが出来る。法人全体で常に上司に相談や提案することが出来、運営に反映させている。	
			(外部評価) 管理者等は年2回、職員と面談をしており、「マイプラン」という職員一人ひとりが立てた目標に対して、確認や助言、悩みを聞く機会としている。職員は「1日5分の反省」と称して、自分を振り返っており、管理者は職員自身が自分に問いかける力を養い、問題解決の能力を高めることができるよう導いている。法人代表者は事業所に頻繁に来訪しており、運営状況を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人一人にマイプランがあり、目標設定を行っている。2ヶ月毎に評価し、面接することで、日々向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人研修（読書会、人材育成研修、管理者研修、認知症、介護技術等）の研修システムがあり、職員の質の向上に努めている。また、個々の能力に応じた外部研修を受ける機会を年1～3回確保している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業所との相互見学は行っているが、研修会等は介護支援専門員の部会のみとなっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面接時に生活歴や習慣、現状や困っていることなどについて話し合いを持ち、スタッフ全員に情報を周知している。入所初期、特に三ヶ月は施設内での生活に混乱や不安を抱きやすいのでしっかりコミュニケーションを取り、声掛けや傾聴に工夫し、少しでも話しやすい関係づくりに努めている。自分から打ち明けられない方などは表情や行動等に注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者はもちろん、ご家族にも積極的に話し合う時間を作ったり、来訪してもらえる機会を作り雰囲気を感じ取っていただくなど、話しやすい環境が出来るよう努めている。全てのことにオープンにし、ご家族に対して隠し事はせず、連絡を取るようになっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り(物的、人的環境の整備)に努めている。また、ご本人やご家族に何度でも見学して頂き、納得して入居出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる場面を多く作る為に、各自役割を持っていただき(掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、調理の手伝い、縫物、ゴミ集め、ゴミ捨てなど)一緒に行っている。カンファレンス時、一人一人の役割について検討している。また、役割として知識や技術、人生論、経験してきたことを聞かせてもらい、より良い関係が築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) お誕生日会やいもたき会、餅つき等の行事と一緒に参加して頂けるように、案内し協力して頂いている。ご利用者が不穏な場合には電話での対応、面会、宿泊などの協力を依頼し、一緒に過ごして頂いている。日常のご利用者がご家族に望んでいることでは、家族と相談し、家族が出来る支援を話し合いケアプランに盛り込んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある場所(美容室、お墓、お寺、神社、デイ、商店、ドライブなど)へ出掛けている。入居前に使っていた社会資源は調べており、現在も継続して使用できている。回数は以前に比べると減っているが、最大限取り組んでいる。外出が難しいご利用者で会いたい人がいるような場合は来訪して頂けるよう職員が仲立ちしている。特に法人内では、スムーズに面会や行事参加が出来るよう努めている。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた関係や習慣を変わりなく継続できるよう、家族等の協力を得ながら支援している。利用者が家族等と過ごす時間を大切にしており、居室に泊まれるように環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者の性格、好み、相性、言動などの視点から関係性を考え日常生活を送る様々な場面で配慮している。また、共通項を探し無理なく自然と良い関係が築けるような支援をするよう心がけている。個々の状態を見極め集団と個別で過ごす時間を作る事で「快」の時間が多くもてるように対応している。また、ご利用者同士でのトラブルになる可能性が高い場面では職員が間に入るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族を、故人が作成した作品の展示会にご案内した。特養に移られた方は、散歩途中の来訪があったり、こちらから面会も出来る。ケアハウスからの移動では、事業所間の連携をとり、行事参加や友人同士の行き来をサポートしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で個々に職員が関わる時間を意図的に作り（学習療法、個別ケア、食事、入浴、外出、居室訪問など）本人のニーズや思いを把握するようにしている。そこで得た情報は日誌に記録。内容を個人別にまとめて書面に打ち出し、月1回のミーティングでケアの見直しを実施。外出場所やリクエスト料理、外食等の参考にしている。 (外部評価) 日々利用者の思いを把握するように努めており、一人ひとりの「夢プラン」を作成している。日々のケアの中での利用者との会話を大切にしており、日誌に記録し共有している。学習療法などを行っている利用者には、個別に関わる時間を意図的に設け、職員は利用者との信頼関係を高める工夫をしている。把握が困難な利用者には家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や変化を観察したりして、記録や話し合いを行い介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族の来訪時の会話やサービス利用のあった事業所からの情報提供、普段の会話の中から把握できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身状態については一日の中でユニット全体のリズムとご利用者の生活リズムをリンクさせ安定した生活が送れるよう支援すると同時に、普段と異なる心身状態にいち早く気づけるようにしている。その中で気づきや発見、有する力などは一日二回の申し送りや、日誌、日常生活チェック表に記録し共有するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 現在の状況、抱える課題、ニーズについて、本人の意見はもちろん、ご家族の意見、自施設だけでは対応が困難な場合は他部署の意見や協力を含めた介護計画の作成を心かけている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の要望を踏まえて、担当者が原案を作成しており、カンファレンスで検討し、現状に即した介護計画を作成している。介護計画に沿った支援は、詳細に記録しており、毎月のモニタリングの根拠として利用している。職員全員が内容を正しく理解して支援ができるよう、共有する方法や書類が見やすいよう工夫している。問題が生じた場合は、法人内の別事業所に客観的な意見をもらうなどの協力をして対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ケース記録、排泄記録、健康チェック表、ケアプラン実施表は毎日記入し、その中で特筆すべき事は業務日誌に記載し共有するようにしている。ミーティングでは特筆事項を事前にまとめたり、それぞれの記録は各担当のご利用者の再アセスメントとケアプラン評価表に用い介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々のニーズに対応できるよう、他事業所の協力やユニット同士の連携を図っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 様々な地域資源（フォーマル、インフォーマルなど）を活用し、ご利用者それぞれが力を発揮できるように支援している。現在、傾聴ボランティアを実施。今後も更なる資源の発掘に努力していく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医は大半が入所と同時にいまなかクリニッ クになっており看護師が中心となり往診の対応をし たり、家族と協力し受診している。ご利用者やご家族 が困る事がないよう必要に応じて同行している。いま なかクリニック以外のかかりつけ医の受診や専門機関 への受診も同様に、健康チェック表のコピーを渡し、必 要であれば同行する事で適切に医療を受けられるよう 支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所は協力医との協力連携体制を整えており、緊急 時にも対応することができ、利用者や家族は安心して 利用することができる。看護師を配置し、利用者の健 康管理をしている。利用者が希望するかかりつけ医や 専門医等を家族等の協力を得て、継続して受診するこ とができる。家族が対応できない場合は、職員が同行 し安心して受診できるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 変わったことや気付いたことは看護師に報告し、指示 を仰ぐようにしている。日々のバイタルチェックを看 護師が確認している。また、看護師は往診や受診後の 結果を書面や日誌に記入し介護職員が確認しやすいよ うにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院に伴い必要な情報の提供、荷物の準備のほか、付き添い が必要な場合は家族と相談し介護サービス以外の機関の紹介 や仲介を行っている。早期退院に向け入院中は面会や病院関 係者に状況を説明してもらい退院後の受入準備をしている。 手術や重い疾患など発見された場合は家族に依頼し医者との 話し合いの場に参加させてもらえるよう働きかけている。事 前に病院関係者との関係作りは行っていない。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護、看護、医者の判断で終末期・重度化の傾向が考 えられた時点でご家族に連絡し、意向や対応の確認を 行っている。その後、事業所でできる最大限のこと や、医療機関ができること、緊急時の対応も含めたプ ランを作成し、ご家族に説明、同意を得て取り組んで いる。</p> <p>(外部評価) 事業所での看取りの経験があり、職員の不安の軽減やチーム での支援など定期的に勉強会を開催し、利用者や家族等の意 向に沿った看取りケアを目指している。看取りの指針を定め マニュアルを整備しており、利用者や家族等の意向を確認 し、事業所としてできることできないことを説明している。 利用者の状態の変化した場合は、段階に応じて話し合いなが ら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルや事故発生時の緊急連絡マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には出来ていない。たまにミーティングの事例検討では「こんなときどう対応するか?」と、事例を挙げそれぞれの対応について話し合う事はある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事業所では年二回、他事業所と協力し防火訓練を行っている。また、法人全体での訓練にも参加している。地域との協力は運営推進会議で話し合われているが明確には決定していないので今後も引き続き働きかけていく。 (外部評価) 年2回の避難訓練を実施しており、初期消火や避難経路の確認している。また法人全体での訓練の実施や備蓄をしている。災害対応マニュアルや緊急時連絡網を整備しており、運営推進会議を利用して災害対策について勉強会や話し合いを行い、地域に向けて情報を発信して協力を得ている。	災害対策について専門家にアドバイスを受けたり、地域住民に具体的に役割分担を協力依頼したりして訓練に参加してもらえるような体制づくりを望みたい。また、あらゆる災害を想定した訓練を繰り返し行ったり、緊急連絡網を活用した訓練を実施したりするなどの取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の生活歴や日々の会話の中で一人ひとりが大切にしている物事や、習慣の把握に努め最大限気持ちよく実践できるように、どう支援すればよいか考え、ケアプランに盛り込んでいる。身体介護（特に入浴、排泄）においては極力本人の意向に沿うよう職員間で協力し対応している。 (外部評価) 職員は排泄支援など利用者個人が特定される発言しないよう気をつけており、居室への入退室時の声かけなど配慮をしている。個人情報に関する同意書を取っており、書類や写真等は厳重に取り扱っている。利用者を敬い、尊厳やプライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望をしっかり伝えられる方はその都度、言葉や態度に耳を傾け可能な事から取り入れている。伝えることが困難な方もいるので少しでも伝えやすいように、選択しやすいような場面を多く作るようにしている。職員が強制してしまわないように意思決定しやすい言葉を使うよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所ではご利用者個々の24時間シートを作成しその人らしい生活スタイルの把握と同時に限られた人員、時間の中で最大限その人らしさが支援できるよう表を作成している。月に一度見直しご利用者の生活スタイルに合わせ変更している。また、その時その時のご利用者の体調や気持ちや希望を優先するよう話し合い、臨機応変に対応する事を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの好みを大切に、身だしなみを整えている。毎朝時間をかけてお化粧される方もおられ、ゆっくり見守っている。季節事の衣替えや新しい衣服の買い物等もご家族と相談し、支援している。施設外の美容室の利用や、髪染めを希望される方には、入浴前にスタッフがやっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の手伝いが可能な方に出来る事は手伝ってもらう。一人一役をお願いし、カレー作りを行っている。個々に得意な料理や食べたい料理があればメニューに取り入れ一緒に作る事もある。食事中は同じテーブルに座り同じものを食べ食事状況を確認しながら会話をし楽しい雰囲気作りを心がけている。後片付けも朝、晩の食器洗い、台拭き、おぼん拭き等、出来る事をそれぞれにお願いしている。月に1～2度は、リクエスト料理の日がある。 (外部評価) 法人の栄養士が献立をたて、専門の調理員が調理している。利用者と職員と一緒に食卓を囲み、和やかな食事の時間を過ごしている。また食器洗いや台ふきなど利用者ができることを手伝ってもらっている。食事が楽しみに繋がるように利用者の志向の把握や健康状態の観察を継続して行っている。利用者の希望を大切にして外食や好きな料理を提供するなど、楽しみに繋がる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士作成による献立を基本にしている。食事は個人差を把握し量や形態、道具を用意しわかりやすいよう食事札を作成し提供している。食事状況を毎日確認しているので都度、見直し対応している。水分摂取量も個別に健康状態を考え目標摂取量を定め種類、形態を多く用意し提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを自力でされる方には声かけし、義歯を外して磨いてもらっている。自力で行うことが難しい方は、出来る範囲で行ってもらい、不十分な箇所は介助を、洗面台で困難な場合は自席でガーグルやブラシを用意しケアしている。定期的に義歯洗浄剤を使用し週に一度は道具の洗浄も実施している。希望や口腔内の状況に応じて歯科医や衛生士によるケアやアドバイスもお願いし道具を揃え対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表に記録しながら、利用者の方の排泄パターンや状態を把握している。食前・食後トイレに座る習慣をつけている。利用者に応じて声かけや定期的な誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。特に介助が必要な方の昼寝や就寝後はセンサーを使用しトイレ誘導している。失禁状況を分析し可能であれば布パンツに移行したり、パットの種類も尿量に応じ見直している。</p> <p>(外部評価) 利用者の健康保持に繋がる排泄支援や脱水状態とならないように、水分摂取に気をつけている。また、利用者一人ひとりの排泄パターンをアセスメントして把握し、個人のリズムを大切に声かけや誘導をして排泄しやすいように支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排泄チェック表のデータを基に個々に排便のパターンを把握している。予防として排便に良いとされる食べ物や飲み物を日常的に取り入れている。(麦、牛乳、ヨーグルト、センナ茶など) 集団レクや個別ケアの中に多く運動を取り入れ、必要な方には腹部マッサージを実践している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 気持ちよく入浴して頂く為に、体調の確認、同性介助や入浴の声かけ、時間帯を工夫し個々の利用者に応じた対応をしている。ゆったりとした午後に入られる方が多いが、午前の活動的な気分の方が入り易い方もおられ、スタッフで話し合いながら、その日の入浴介助に臨んでいる。面倒な気分をプラスに持って行く為、散歩後にさりげなく誘導したり、楽しい会話で気分を盛り上げる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者は週2回を基本として入浴することができる。また法人内の別事業所の大浴場を利用ばど利用者が入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、声かけや関係づくりなどをして対応をしている。入浴できない時には、清拭や足浴などを実施し清潔保持に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者の方の睡眠状態や体調をしっかり観察し、それに応じて時間や場所を制限せず、休める時、休みたい時にゆっくり休んで頂けるようにしている。個々の利用者に応じた室温や環境を整えている。夜間不眠傾向にある方には、日中の活動量(散歩や作業など役割を持った生活)を増やし、気持ちよく眠れるよう支援している。また、眠れない時にはホットミルク等の飲み物を勧めたりしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の薬について効用、副作用を知る為にミーティングでの勉強会を実施している。服薬については学んだ知識とご利用者の状況を分析し看護師や医師と相談し必要に応じて見直し服薬変更することもある。変更時は変更前と比較しやすいようチェック表に記録、日誌に効用、副作用を記載し共有できるよう心がけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者との会話や、家族、過去を知る人から情報を集め日々の生活の中で趣味や特技をどのように支援すれば役割や楽しみとして活かせるか話し合いケアプランを作成し実践している。また、季節の行事や非日常を演出するような行事を計画し楽しんでもらえるよう工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 週に一度は、外出支援の日を設け季節の花を見に行ったり、買い物に出掛けたりしている。また、その日の広告を見て、行きたい所や、ほしい物、食べたい物があれば、希望に添った外出や買い物の支援に努めている。外出時不穩になれる方は家族に同行の協力していただいている。故郷めぐりや、うどんツアー、動物園へ行く等の小旅行での夢プラン実現もしている。 (外部評価) 週に1回、計画的に外出支援をしており、利用者の希望で遠方への旅行やふるさと訪問など家族等の協力を得ながら楽しんでいる。日常的に買い物や散歩にも外出して地域住民と交流したり、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は金庫にて個別に管理しているが、必要に応じて、ご利用者の希望時に所持して頂けるようにしている。一緒に買い物に行き好きな物を買ったり出来るよう個別ケアも行っている。預かり金以外に家族からお金をもらい個人管理している方はご自身で支払いする事もある。ご本人管理の金銭については紛失などの恐れがあることを家族に理解してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 帰宅願望のあるご利用者が安心して落ち着けるよう、ご家族と相談し、電話をかけたり、ご家族から電話をかけて頂くなどしている。お友達などから手紙や小包が届く場合はお礼の連絡をしたり、ご家族に連絡するようにしている。手紙やはがきはお渡しし、返信したいとの希望があれば、絵手紙等ご本人が出来る事を工夫して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節のものを置いたり、ご利用の方が作られた作品、月ごとの手作りカレンダーを飾り、散歩途中で摘んだ花を廊下や共用室に飾っている。フロアは毎食後、トイレ、廊下は毎朝掃除し清潔にしている。快適に過ごせるよう温度湿度には注意している。</p> <p>(外部評価) 落ち着いた色味のある空間は室内の温度や配光に気を配っており、利用者や訪問者はやすらぎがもてる。ユニット間は中庭で囲んで隣接しており、お隣となる関係づくりをしている。季節の花や作物を育てることを楽しみにしており、窓からは自然豊かな景色を眺めることができ、好みの場所で過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 少し目隠しになっている廊下のイスやソファで気の合うご利用者同士お話をされたりしている。時間帯によっては、食堂で好きな音楽や会話を楽しまれる方、皇室の本や雑誌を観る方、テレビで、時代劇や動物のビデオを楽しまれる方等がおられ、それぞれの空間を楽しまれている。またお気に入りの場所を確保するべく、無理なく、スムーズな移動の声掛け、介助に努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や布団、小物ものなど馴染みのものを置くことで、使いやすく落ち着ける空間作りを行っている。少しでも今まで生活していた環境に近い状態を作るようご家族の協力の下環境整備を行っている。また、認知症状の進行やADLに変化があった場合は可能な限り安心、自立、できるような空間作りを心がけている。</p> <p>(外部評価) 居室は入居前の自宅を再現する工夫をしており、馴染みの物を持ち込むなど、居心地良い落ち着いた空間となっている。安全面を考慮して手すりを付けたり、フローリングを畳に変更したりして、利用者の希望や状態に合わせた環境整備をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 共有スペース、居室出入り口には転倒防止のため、手摺りを設置。トイレ、風呂、居室には表札や表示をご利用者の目線にあわせ設置しわかりやすくしている。居室内で混乱する方も同様に表示などを活用し安心して過ごせるよう配慮している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷3丁目16-33
自己評価作成日	25年 6月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 6 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっと、のんびり、かきねなし」この理念の元、入居者様の意向を大切に開かれた施設でありたいと努力している。ご家族との信頼関係、地域の方との交流を大切にしている。水分摂取に力を入れ、個別に目標を設定し、脱水の予防、便秘予防、日中の覚醒レベル向上に生かしている。排泄ケアにも力を入れており、排泄チェック表での排泄リズムの把握で、日中はほぼ布パンツで過ごせるよう自立支援に努めている。また、認知症状の改善には、服薬の見直しや学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

予讃線沿いののどかな景色の中にある事業所は開設され4年目を迎える。事業所建設時に職員の意見を出し合い、利用者にとって暮らしやすさを追求した建物は、和風のモダンな造りとなっており、足を1歩踏み入ると木の香りに癒され、利用者や家族等から好評を得ている。母体法人は新居浜市内を中心に多種の施設を運営する社会福祉法人で、「共に生き、地域から人と自然と芸術との共生」を目標として、優しい絆で紡ぐコミュニティーづくりを目指している。職員は一人ひとりの目標を持ち、利用者のケアに対して前向きな姿勢で取り組んでいる。管理者は職員の自発性を尊重して目標が達成できるよう導いており、相互に信頼関係を築いている。地域住民と日頃から交流を大切にし、利用者本位のケアが実践できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループ ホーム ほの花

(ユニット名) 椿

記入者(管理者)
氏名 三谷 由紀

評価完了日 25年 6月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設当初スタッフで話し合い作った理念を目の届く場所に提示しており、常に理念に基づいてケアプランを作成し支援できているか振り返るようにしている。25年度には、「どのような施設にしたいか」かをテーマにユニットの理念を作り日々取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 理念は、利用者と地域社会、家族等の繋がりを大切にして、開設時に職員で話し合い作成している。職員には入職時の初期教育で共有しており、事業所の礎として日常のケアや介護計画の援助方針に取り入れている。ユニット毎に理念に基づいた目標を立て、常に初心や原点に立ち返りながら、職員が同じ方向を向いて実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、盆踊りや清掃活動、お祭り等地域行事に参加している。また、法人主催の行事への参加を呼びかけ交流を深めている。運営推進会議には地域の代表者が毎回参加し意見交換も行われている。また、施設西側に近隣の住民が散歩中や農作業中に休憩できるようベンチを設置した。中には農作業をしている人と仲良くなり交流している入居者さんもいる。</p> <p>(外部評価) 事業所の近隣にある母体法人の特別養護老人ホームや障害者支援施設は歴史も長く、地域の一員として認識されている。日頃から職員や利用者は地域住民と挨拶や会話を心がけており、地域行事に積極的に参加している。事業所は地元商店での取り引きや交流を図り、相互の協力関係を築いている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 法人全体で地域参加型の勉強会を開催しており、事業所での取り組みや認知症の理解、支援について説明している。事業所としては運営推進会議で毎回テーマを決め認知症勉強会を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) DVDを作成し日常の様子、行事、学習療法などの報告を行っている。毎回、質疑応答の時間を設け、ご家族、地域の代表、行政、職員が意見交換を行っている。質問や要望については必ず解答するよう努めている。そこで話し合われたことを全職員に伝え、ご利用者の生活の質の向上に役立っている</p> <p>(外部評価) 会議は市担当者、家族、地域住民など様々な立場の方の参加を得て開催している。会議には防災訓練や認知症の勉強会と一緒に開催するなどの工夫をしており、多くの地域住民に情報を発信している。参加者からは活発な意見が出されており、出された提案を次回の議題に取り上げるなど、会議をサービス向上に繋がるよう活用している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加しての感想や意見を頂くほか、行事への参加案内、待機者報告、介護支援専門員の地域密着部会へ参加している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議へ参加しており、待機者数等の定期的な報告や相談など、日頃から気軽に連絡や相談ができる関係が築かれている。市の介護相談員を受け入れており、同じ介護相談員が事業所を訪問してくれ、利用者との良好な関係をつくりながら会話や相談、交流をしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行っており正しい理解に努めている。玄関、裏口等、夜間以外は施錠していない。また、言葉での抑制にも日々注意している。一人で出掛けることが日課になっている利用者には、ご家族と話し合いGPSを使用した見守りを実践したり、転倒リスクの高い利用者にはセンサーや歩行器、手摺りの設置など環境面の整備や介助方法を検討、実践する事で拘束0を目指している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを整備しており、職員は法人全体で勉強会を行うなど身体拘束をしないケアを理解して実践している。安全上やむを得ない場合は、家族等との同意書を交わし、経過観察や再検討を行い最小限となるように努めている。玄関はセンサーやGPSを利用して日中開放されており、職員間で声かけや見守りを徹底しながら利用者の自由な暮らしが送れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内の研修や勉強会で虐待防止について学んでいる。管理者は職員のストレスケアを考え各職員の言動や業務の流れの把握に努めている。職員は日常生活において身体に異常がないか、会話の中で言葉の暴力はないか注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在は自立支援事業や成年後見制度を活用する事はないが、今後必要時速やかに活用し、支援できるよう継続して学んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず重要事項説明書にて、十分な説明を行いご家族より承諾を得ている。解約や改定にも速やかに対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族からは運営推進会議や面会時、ケアプランの作成段階で、ご利用者からは普段の会話やケアプラン作成時に意見や要望等を察したり、直接確認する事で、運営に反映させている。	
			(外部評価) 利用者や家族には、訪問時やケアプラン作成などの連絡を活用して、ユニットリーダーや担当職員が必ず声をかけ意向を確認するように努めている。意見が出された場合は、苦情ノートを活用して職員間で共有し、速やかな対応をして運営に反映している。また、苦情受付窓口が事業所内と公的機関にあり、サービスに対しての意見がある場合は相談できることを利用者や家族等に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 代表者や管理者との面談が年2回あり、意見を伝えることが出来る。法人全体で常に上司に相談や提案することができ、運営に反映させている。事業所内では月1回の全体ミーティングと同時に事前に、リーダーとの個別面談を行いケアや業務だけでなく様々なことで発言しやすい場面を作る事を心がけている。</p> <p>(外部評価) 管理者等は年2回、職員と面談をしており、「マイプラン」という職員一人ひとりが立てた目標に対して、確認や助言、悩みを聞く機会としている。職員は「1日5分の反省」と称して、自分を振り返っており、管理者は職員自身が自分に問いかける力を養い、問題解決の能力を高めることができるよう導いている。法人代表者は事業所に頻繁に来訪しており、運営状況を把握している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員一人一人にマイプランがあり、目標設定を行っている。2ヶ月毎に評価し、面接することで、日々向上心を持って働けるよう努めている。勤務についても体調を考慮し希望になるべく添え、双方が合意のもと働けるよう本人の意向を確認している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人研修（人材育成、認知症、介護技術勉強会）本人が学びたい研修を選択することができ、職員の質の向上に努めている。また、個々の能力に応じた外部研修を受ける機会を年1～3回確保している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他事業所との相互見学は行っているが、研修会等は介護支援専門員の部会のみとなっている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の面接時に生活歴や習慣、現状や困っていることなどについて話し合いを持ち、スタッフ全員に情報を周知している。入居以前から可能な限り、訪問し関係作りに取り組んだ。また、入所初期、特に三ヶ月は施設内での生活に混乱や不安を抱きやすいのでしっかりコミュニケーションを取り、声掛けや傾聴に工夫し、少しでも話しやすい関係作りを努めている。自分から打ち明けられない方などは表情や行動等に注意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者はもちろん、ご家族にも積極的に話し合う時間を作ったり、来訪してもらえる機会を作り雰囲気を感じ取っていただくなど、話しやすい環境が出来るよう努めている。全てのことにオープンにし、ご家族に対して隠し事はせず、連絡を取るようしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り（物的、人的環境の整備）に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる場面を多く作る為に、入居者さんが出来ることを奪わないよう配慮し、各自役割を持っていただき一緒に行っている。カンファレンス時、一人一人の役割について検討している。また、役割として知識や技術、人生論、経験してきたことを聞かせてもらい、より良い関係が築けるよう努めている。調理、菜園、編み物、縫い仕事では教えてもらうことも多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者が不穏な場合には電話での対応、面会、宿泊などの協力を依頼し、一緒に過ごして頂いている。日常にご利用者をご家族に望んでいることでは、家族と相談し、家族が出来る支援を話し合いケアプランに盛り込んでいる。家族が認知症についての知識が乏しい、本人との価値観が違うことで、関係が悪化するような場合には職員が介入し家族と話し合い何が大切なのかを理解、確認し改善できるよう取り組んだ。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある場所（美容室、お墓、お寺、神社、デイ、商店、ドライブなど）へ出掛けている。入居前に使っていた社会資源は調べており、現在も継続して使用できている。回数は以前に比べると減っているが、最大限取り組んでいる。外出が難しいご利用者で会いたい人がいるような場合は来訪して頂けるよう支援している。現実的に不可能な場合でも集めた情報を基に職員が演じたり、再現することで落ち着かれている人もいる。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた関係や習慣を変わりなく継続できるよう、家族等の協力を得ながら支援している。利用者が家族等と過ごす時間を大切にしており、居室に泊まれるように環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者の性格、好み、相性、言動などの視点から関係性を考え日常生活を送る様々な場面で配慮している。また、共通項を探し無理なく自然と良い関係が築けるような支援をするよう心がけている。個々の状態を見極め集団と個別で過ごす時間を作る事で「快」の時間が多くもてるように対応している。また、ご利用者同士でのトラブルになる可能性が高い場面では職員が間に入るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 前回、外部評価を終えてから契約が終了した方はいないが、必要に応じて家族への対応は可能である。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で個々に職員が関わる時間を意図的に作り、本人のニーズや思いを把握するようにしている。そこで得た情報は日誌に記録、事前に書面にし月1回のミーティングでケアの見直しに活かし共有するようにしている。即実現可能な件は迅速に、そうでない件も実現可能に向け話し合うようにしている。困難な場合でも、「生活歴や基本的な人間の営みとしてQOLが高く、その人らしく生きる」ことを前提に考え取り組んでいる。 (外部評価) 日々利用者の思いを把握するように努めており、一人ひとりの「夢プラン」を作成している。日々のケアの中での利用者との会話を大切にしており、日誌に記録し共有している。学習療法などを行っている利用者には、個別に関わる時間を意図的に設け、職員は利用者との信頼関係を高める工夫をしている。把握が困難な利用者には家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や変化を観察したりして、記録や話し合いを行い介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族の来訪時の会話やサービス利用のあった事業所からの情報提供、普段の会話の中から把握できるように努めている。最近では面会や訪問先での出会う友人や知人、傾聴ボランティアさんからの情報も参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 身体の把握では活動時間や毎朝のBDチェックや異変を感じた時のBDチェックを徹底している。また、看護師とも密に連携し相談することで適切な対応を心がけることで大きな問題は出ていない。精神面でも記録表に時間帯、行動、訴えなどを記録し一日だけでなく、一か月、半年と比較し原因の調査とケアの方針を決定している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 職員はペアで担当を持ち、個人ワークを基に話し合う。さらに、ミーティングで話し合いチームのケアとして取り組んでいる。一人の視点ではなく多くの視点を活用することに努めている。その中では本人の言葉が最優先に考えるようにしている。また、作成前には家族の思いを確認することや、本人の希望や課題について相談するようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族等の要望を踏まえて、担当者が原案を作成しており、カンファレンスで検討し、現状に即した介護計画を作成している。介護計画に沿った支援は、詳細に記録しており、毎月のモニタリングの根拠として利用している。職員全員が内容を正しく理解して支援ができるよう、共有する方法や書類が見やすいよう工夫している。問題が生じた場合は、法人内の別事業所に客観的な意見をもらうなどの協力をして対応している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別ケース記録、排泄記録、健康チェック表、ケアプラン実施表は毎日記入し、その中で特筆すべき事は業務日誌に記載し共有するようにしている。ミーティングでは特筆事項を事前にまとめたり、それぞれの記録は各担当のご利用者の再アセスメントとケアプラン評価表に用い介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) その時々々のニーズに対応できるよう、他事業所の協力やユニット同士の連携を図っている。在宅にいる奥さんに認知症状が現れ、体力的に衰えが見える状況で、少しでも在宅で生活ができるようにケアマネ、ヘルパーと連携し出来る限り見守りや水分、服薬の確認、入居中のご主人と会える時間を作るようにしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 様々な地域資源（フォーマル、インフォーマルなど）を活用し、ご利用者それぞれが力を発揮できるように支援している。今後も更なる資源の発掘に努力していく。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医は大半が入所と同時にいまなかクリニ ックになっており看護師が中心となり往診の対応をし たり、家族と協力し受診している。ご利用者やご家族 が困る事がないよう必要に応じて同行したり書面を用 意している。いまなかクリニック以外のかかりつけ医 の受診や専門機関への受診も同様に受診連絡表を 作成し、健康チェック表のコピーをわたし、必要 であれば同行する事で適切に医療を受けられるよう 支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所は協力医との協力連携体制を整えており、緊 急時にも対応することができ、利用者や家族は安心 して利用することができる。看護師を配置し、利用 者の健康管理をしている。利用者が希望するかかり つけ医や専門医等を家族等の協力を得て、継続して 受診することができる。家族が対応できない場合は、 職員が同行し安心して受診できるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 変わったことや気付いたことは看護師に報告し、指 示を仰ぐようにしている。日々のバイタルチェックを 看護師が確認している。また、看護職は往診や受診 後の結果を書面や日誌に記入し介護職員が確認し やすいようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院に伴い必要な情報の提供、荷物の準備のほ か、付き添いが必要な場合は家族と相談し介護サー ビス以外の機関の紹介や仲介を行っている。早期 退院に向け入院中は面会や病院関係者に状況を説 明してもらい退院後の受入準備をしている。手術 や重い疾患など発見された場合は家族に依頼し医 者との話し合いの場に参加させてもらえるよう働 きかけている。事前に病院関係者との関係作りは 行っていない。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護、看護、医者の判断で終末期・重度化の傾 向が考えられた時点でご家族に連絡し、意向や 対応の確認を行っている。その後、事業所で できる最大限のことや、医療機関が できること、緊急時の対応も含めた プランを作成し、ご家族に説明、同意 を得て取り組んでいる。話し合わ れた内容は記録するようにして いる。</p> <p>(外部評価) 事業所での看取りの経験があり、職 員の不安の軽減やチームでの支 援など定期的に勉強会を開催し、 利用者や家族等の意向に沿った 看取りケアを目指している。看 取りの指針を定めマニュアルを 整備しており、利用者や家族等 の意向を確認し、事業所として できることできないことを説明 している。利用者の状態の変化 した場合は、段階に応じて話し 合いながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルや事故発生時の緊急連絡マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には出来ていない。事故を未然に防ぐために、「こんなときどう対応するか？」事例を挙げそれぞれの対応について話し合い、優先順位の確認を行っている。見守り携帯を使用し隣ユニットと連携に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事業所では年二回、他事業所と協力し防火訓練を行っている。また、法人全体での訓練にも参加している。地域との協力は運営推進会議で話し合われているが明確には決定していないので今後も引き続き働きかけていく。 (外部評価) 年2回の避難訓練を実施しており、初期消火や避難経路の確認している。また法人全体での訓練の実施や備蓄をしている。災害対応マニュアルや緊急時連絡網を整備しており、運営推進会議を利用して災害対策について勉強会や話し合いを行い、地域に向けて情報を発信して協力を得ている。	災害対策について専門家にアドバイスを受けたり、地域住民に具体的に役割分担を協力依頼したりして訓練に参加してもらえるような体制づくりを望みたい。また、あらゆる災害を想定した訓練を繰り返し行ったり、緊急連絡網を活用した訓練を実施したりするなどの取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の生活歴や日々の会話の中で一人ひとりが大切にしている物事や、習慣の把握に努め最大限気持ちよく実践できるように、どう支援すればよいか考え、ケアプランに盛り込んでいる。身体介護（特に入浴、排泄）においては極力本人の意向に沿うよう職員間で協力し対応している。 (外部評価) 職員は排泄支援など利用者個人が特定される発言しないよう気をつけており、居室への入退室時の声かけなど配慮をしている。個人情報に関する同意書を取っており、書類や写真等は厳重に取り扱っている。利用者を敬い、尊厳やプライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望をしっかり伝えられる方はその都度、言葉や態度に耳を傾け可能な事から取り入れている。伝えることが困難な方もいるので少しでも伝えやすいように、選択しやすいような場面を多く作るようにしている。職員が強制してしまわないように意思決定しやすい言葉を使うよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所では職員が単独で行う業務を優先しないように徹底している。限られた人員、時間の中で最大限その人らしさが支援できるよう表を作成したり、優先すべきことは何かを話し合った。月に一度見直し、ご利用者の生活スタイルに合わせ変更している。また、その時その時のご利用者の体調や気持ちや希望を優先するよう話し合い、臨機応変に対応する事を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの好みを大切に、身だしなみを整えている。更衣する際も職員が決めるのではなく、いくつか提示し、ご利用者自身に選んでいただけるようにしている。更衣などで混乱する方には混乱しないよう工夫している。今後も身だしなみやおしゃれを意識するような行事や場面を多くしていきたい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の手伝いが可能な方に出来る事は手伝ってもらい、個々に得意な料理や食べたい料理があればメニューに取り入れ一緒に作る事もある。調理以外ではおしぼりの準備やお茶いれ、盛り付けを共同で行い食事の準備を行っている。食事中は音楽を流し同じテーブルに座り同じものを食べ食事状況を確認しながら会話をし楽しい雰囲気作りを心がけている。後片付けも同様である。 (外部評価) 法人の栄養士が献立をたて、専門の調理員が調理している。利用者と職員と一緒に食卓を囲み、和やかな食事の時間を過ごしている。また食器洗いや台ふきなど利用者ができることを手伝ってもらっている。食事が楽しみに繋がるように利用者の志向の把握や健康状態の観察を継続して行っている。利用者の希望を大切にして外食や好きな料理を提供するなど、楽しみに繋がる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は個人差を把握し量や形態、道具を用意しわかりやすいよう食事札を作成し提供している。姿勢にも注意しクッションや踏み台を使用したり、テーブルの高さを調整している。食事状況を毎日確認しているので都度、見直し対応している。水分摂取量も個別に健康状態を考え目標摂取量を定め卓上に急須を用意したり、種類、形態を多く用意し提供している。提供時間も本人の状態に合わせ柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを自力でされる方には声かけし、義歯を外して磨いてもらっている。自力で行うことが難しい方は、出来る範囲で行ってもらい、不十分な箇所は介助を、洗面台で困難な場合は自席でガーグルやブラシを用意しケアしている。定期的に義歯洗浄剤を使用し週に一度は道具の洗浄も実施している。希望や口腔内の状況に応じて歯科医や衛生士によるケアやアドバイスをもらい道具を揃え対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記録しながら、利用者の方の排泄パターンや状態を把握している。食前・食後トイレに座る習慣をつけている。利用者に応じて声かけや定期的な誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。特に介助が必要な方の昼寝や就寝後はセンサーを使用しトイレ誘導している。失禁状況を分析し可能であれば布パンツに移行したり、パットの種類も尿量に応じ見直している。 (外部評価) 利用者の健康保持に繋がる排泄支援や脱水状態とならないように、水分摂取に気をつけている。また、利用者一人ひとりの排泄パターンをアセスメントして把握し、個人のリズムを大切に声かけや誘導をして排泄しやすいように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表のデータを基に個々に排便のパターンを把握している。予防として排便に良いとされる食べ物や飲み物を日常的に取り入れている。(麦、牛乳、ヨーグルトなど) 集団レクや個別ケアの中に多く運動を取り入れ、必要な方には腹部マッサージを実践している。服薬も見直している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の入浴希望を確認している。毎日の入浴を希望する人はいないので定期的に入浴できるよう声掛けしている。入浴を極端に拒む人には入浴前からのアプローチを工夫している。時間帯も、午前、午後、夕方と柔軟に対応している。施設内の風呂だけでなく、自宅や、銭湯、デイなどの風呂も活用している。 (外部評価) 利用者は週2回を基本として入浴することができる。また法人内の別事業所の大浴場を利用ばど利用者が入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、声かけや関係づくりなどをして対応している。入浴できない時には、清拭や足浴などを実施し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の方の睡眠状態や体調をしっかり観察し、それに合わせて時間や場所を制限せず、休める時、休みたい時にゆっくり休んで頂けるようにしている。個々の利用者に応じた環境を整えている。夜間不眠傾向にある方には、日中の活動量を増やし、気持ちよく眠れるよう支援している。どうしても昼夜逆転してしまう入居者さんには医者と相談し必要最低限の睡眠薬を使用し、安定した生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の薬について効用、副作用を知る為にミーティングでの勉強会を実施している。服薬については学んだ知識とご利用者の状況を分析し看護師や医師と相談し必要に応じ見直し服薬変更することもある。変更時は変更前と比較しやすいようチェック表に記録、日誌に効用、副作用を記載し共有できるよう心がけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者との会話や、家族、過去を知る人から情報を集め日々の生活の中で趣味や特技をどのように支援すれば役割や楽しみとして活かせるか話し合いケアプランを作成し実践している。また、季節の行事や非日常を演出するような行事を計画し楽しんでもらえるよう工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望と習慣を把握し、行事での外出、個別ケアでの外出を明確にし予定を立て日々支援している。突発的な希望に対しても職員間で話し合い市内であれば即対応している。年に一度は遠出の外出支援を実践し、家族や、地域住民に協力もしてもらっている。遠い近い、多い少ないではなくご利用者に無理のない頻度で安心して楽しんでもらえるよう考えケアプランを作成し実践している。 (外部評価) 週に1回、計画的に外出支援をしており、利用者の希望で遠方への旅行やふるさと訪問など家族等の協力を得ながら楽しんでいる。日常的に買い物や散歩にも外出して地域住民と交流したり、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は金庫にて個別に管理しているが、必要に応じて、ご利用者の希望時に所持して頂けるようにしている。一緒に買い物に行き好きな物を買ったり出来るよう個別ケアも行っている。預かり金以外に家族からお金をもらい個人管理している方はご自身で支払いする事もある。ご本人管理の金銭については紛失などの恐れがあることを家族に理解してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から希望があれば電話をかけたり、ご家族から電話をかけて頂くなどしている。お友達などから手紙や小包が届く場合はお礼の連絡をしたりするようにしている。手紙やはがきはお渡しするが返信したいとの希望は聞かれない。過去やり取りしていた事実を現在と思い込んでいた入居者さんに対し家族と協力し演じることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節のものを置いたり、ご利用の方が作られた作品、散歩途中で摘んだ花を廊下や共用室に飾っている。時には懐かしいレコードやビデオを流している。マッサージ機、ロールカーテン、ペーパーホルダーなど入居者さんの行動や意見に合わせて変更した。フロアは毎食後、トイレ、廊下は毎朝掃除し清潔にしている。トイレの隅にバケツ、雑巾を置き汚れていたらすぐ掃除できるようにしている。快適に過ごせるよう温度湿度には注意している。</p> <p>(外部評価) 落ち着いた色味のある空間は室内の温度や配光に気を配っており、利用者や訪問者はやすらぎがもてる。ユニット間は中庭で囲んで隣接しており、お隣となる関係づくりをしている。季節の花や作物を育てることを楽しみにしており、窓からは自然豊かな景色を眺めることができ、好みの場所で過ごすことができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 少し目隠しになっている廊下のイスやソファで気の合うご利用者同士お話をされたり、お経を唱えられる方の為に、畳の位置を変え、椅子と座布団をおき、正座するのが難しい方でも座れるように工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や布団、小物ものなど馴染みのものを置くことで、使いやすく落ち着ける空間作りを行っている。少しでも今まで生活していた環境に近い状態を作るようにご家族の協力のもと環境整備を行っている。家族の理解を得るのに苦労することもある。また、認知症状の進行やADLに変化があった場合は可能な限り安心、自立、できるような空間作りを心がけている。</p> <p>(外部評価) 居室は入居前の自宅を再現する工夫をしており、馴染みの物を持ち込むなど、居心地良い落ち着いた空間となっている。安全面を考慮して手すりを付けたり、フローリングを畳に変更したりして、利用者の希望や状態に合わせた環境整備をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 共有スペース、居室出入口には転倒防止のため、手摺りを設置。トイレ、風呂、居室には表札や表示をご利用者の目線にあわせ設置しわかりやすくしている。居室内で混乱する人も同様に表示などを活用し安心して過ごせるよう配慮している。</p>	